

平成25年12月 岡山市教育委員会定例会 会議録

1 開催日	平成25年12月24日 (火)		
2 開会及び閉会	開会	14時10分	
	閉会	16時10分	
3 出席委員	委員長	塩田澄子	
	委員	曾田佳代子	
	委員	東條光彦	
	委員	奥津晋	
	委員(教育長)	山脇健	
4 会議出席者			
職名	氏名	職名	氏名
教育次長	橋本拓治	教育次長	渡辺和夫
統括審議監	佐々木辰昭	審議監(学校教育担当)	天野和弘
審議監(生涯学習担当)	直本正明	教育企画総務課長	長瀬尚樹
学事課長	三宅泰司	指導課長	堀井博司
指導課教育支援担当課長	山崎克磨	生涯学習課長	丸川康一
文化財課長	乗岡実	スポーツ振興課長	畑太志
子ども企画総務課次世代育成担当課長	逢澤正男		
事務局(教育企画総務課課長補佐)	高木宏	事務局(教育企画総務課副主査)	坂本頼則
5 議題及び結果			
第33号議案 平成26年度の土曜授業について		原案修正案可決	
6 教育長等の報告 [平成25年11月16日(土)～平成25年12月13日(金)]			
11/16	土曜授業標準実施日	指導課	
11/16～11/17	自然体験リーダー養成講座(ステップ4)	子ども企画総務課	
11/17	八角寄席	文化財課	
11/18	いきいき学校園づくり	指導課	
11/19	いきいき学校園づくり	指導課	
11/20	いきいき学校園づくり	指導課	
11/21	いきいき学校園づくり	指導課	

11/22	いきいき学校園づくり	指導課
11/22	操南中学校区防災講演会	指導課
11/23	イングリッシュビレッジ事業	こども企画総務課
11/24	第39回岡山市スポーツ少年団体育大会	スポーツ振興課
11/25	特別支援教育の視点を生かした授業づくりの実践研究	指導課
11/27	開かれた学校づくり講演会	生涯学習課
11/30	幼稚園の先生と遊ぼう	文化財課
11/30～12/1	自然体験リーダー養成講座（ステップ5）	こども企画総務課
曾田委員 教育支援担当課長	○ 特別支援教育の視点を生かした授業づくりの実践研究について、詳しく説明を願う。 ○ 平成22年度から始めている事業であるが、テーマによって研究指定校を決め、2年間の研究期間で事業を展開している。今般、特別支援学級だけでなく通常の学級にも特別支援教育を必要とする子がいるということも踏まえ、そうした子ども達をより理解し、授業づくりに生かしていくことを目的としている。 大野小学校は、24年度に研究指定校となり、今年が発表の年となった。同校は、ユニバーサルデザインの視点からの授業づくり・話し合い活動の充実・環境づくりという3つの視点で研究を進め、今回、最後の発表となったものである。	
曾田委員 教育支援担当課長	○ このときは、大野小学校の教職員だけが集まったのか。 ○ 市内の学校にも案内をし、大野小学校以外にも43名の教員が授業参観し、研究協議に参加した。	
曾田委員 教育支援担当課長	○ 現在、何校が指定されているのか。 ○ 22年度は福浜小学校（初年度のため1年間の研究期間）、23・24年度が高島中学校、25・26年度として上道中学校が指定校になっている。	
曾田委員 教育支援担当課長	○ それぞれの学校が研究したことは、他校にフィードバック等される仕組みがあるのか。 ○ 毎年行う特別支援教育担当者の研修会の中で、研究発表の翌年に、研究報告、実践発表等を行っている。実践研究のテーマについては、学校のニーズに合わせることを基本としているが、大学教授にも参加していただき（今回は、倉敷作陽大学の橋本先生）、話し合いをしながら、テーマ決定等している。	
東條委員 生涯学習課長	○ 開かれた学校づくり講演会は、どういった内容のものだったのか。 ○ 赤磐市立高陽中学校の平田校長先生に、「失敗に学ぶ地域連携～その実際と成果の検証～」という内容で講演をしていただいた。 地域連携の目的を子ども達にきちんと伝えないと、子ども達が地域の思いを適切に理解できず、本当の意味での地域連携にならないなど、ご自身の経験に基づく思いを語っていただいた。 参加者187人中、129人が学校関係者、58名がPTAや地域コーディネーター、地域ボランティアの方々の参加であった。	
曾田委員 生涯学習課長 曾田委員 生涯学習課長 委員長 生涯学習課長	○ 地域コーディネーターは、どれくらい配置されているのか。 ○ 10中学校区、約30校への配置となっている。 ○ 今後、広がりそうな気配なのか。 ○ 少しずつは広がってきているが、まだ不十分だと思っている。 ○ 全中学校区で募集をかけたが、応募者が10中学校区のみということなのか。 ○ 中学校区で一体となって取り組んでいただくため、地域協働学校に取り組んでいる中学校区の応募が多いが、人選が難しいこともあって、10中学校区にとどまっている。	
奥津委員 次世代育成担当課長	○ 自然体験リーダー養成講座は、どういったことをしているのか。 ○ 今回は、ステップ4と5についての報告であるが、事業としては、子ども達と自然とを繋ぐ自然体験リーダーを養成するもので、ステップ1から5を一連のものとしている。	
奥津委員 次世代育成担当課長	○ どういった方が対象となるのか。 ○ 大学生以上の大人の方が対象である。ステップ5の終了後は、自然体験リーダーズクラブに入っただき、子ども達の自然体験へのアドバイスを行ったりする等	

<p>委員長 教育支援担当課長</p> <p>曾田委員 教育支援担当課長</p> <p>曾田委員</p> <p>委員長 指導課長</p> <p>委員長 指導課長</p>	<p>していただいている。今回の募集人員は20人だったが、応募者が10名、都合による辞退等もあって、結果、8名での事業実施となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 防災講演会は、学区ごとに開催されているものなのか。 ○ 今回の操南中学校区については、国の事業を活用して、中学生が気仙沼へ防災ボランティアに行った際の報告と、地元の方に対して岡山理科大学の西村先生に防災に関する講演をしていただいたことについて、事業報告として挙げているものである。 ○ 昨年、西大寺中学校で行われたものと同種のものか。 ○ 同じ事業のものである。子ども達が地域住民の方に訴える力は強いものがあるため、国の事業が継続されれば、来年度以降も続けていきたいと考えている。 ○ その学区の方が受講した後、他の学区に影響が及んでいくなど、広がってほしいと思う。 ○ 土曜授業標準実施日というのは、どういう形のものだったのか。 ○ 11月16日を土曜授業の標準実施日としており、この日に実施した学校が多くあったため、今回報告したものである。特に小学校では、多くの学校が、学習発表会、音楽発表会などの学校行事を行ったというのが2学期の特徴だった。 ○ 地域には、公開して行われたのか。 ○ 公開を原則としている。
<p>7 議事の概要</p>	
<p>委員長 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長 全委員 委員長</p> <p>委員長</p> <p>全委員 委員長 委員長 指導課長 委員長 曾田委員</p> <p>指導課長</p> <p>曾田委員</p> <p>指導課長</p> <p>教育長 東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 12月定例岡山市教育委員会を開催する。 ○ 本日の傍聴希望者は1名。入室してもらってよいか。 ○ <承認> ○ 日程第1，会期は本日1日限りとしてよいか。 ○ <承認> ○ 日程第2，11月定例会の議事録に問題はないか。 ○ <承認> ○ 日程第3，教育長等の報告，事業報告について質問はないか。 (会議録6「教育長等の報告」に記載) ○ 議事に入る前に会議の公開・非公開について諮る。日程第4の第34号議案は、岡山市教育委員会会議規則の第9条1項第1号に該当するため、非公開としてよいか。 ○ <承認> ○ それでは先の議題は非公開とする。 ○ 日程第4，第33号議案を説明願う。 ○ 説明(第33号議案の資料に沿って説明) ○ 質問，意見はないか。 ○ 今回の議案は、土曜授業の試行を決定するものなのか、内容の精査を行うものなのか。また、説明にあった実施計画の再検討というのは、試行することが決まった後に行うのか、同時進行していくものなのか。 ○ 26年度については、今年度と同様、「開かれた学校づくり」と「よりよい教育課程の編成」の2つを目的として行いたいと考えている。 ○ 今回の資料では、事務レベルのことしか記載されていない。土曜授業ありきで、今年度試行し、来年度も試行するというのは、趣旨を理解しかねる感がある。 試行が駄目ということではなく、今年度試行し、アンケート結果も出ているのであるから、来年度に向けての岡山市としての方向性を打ち出しておくべきで、これから再点検するというのは、少しテンポが遅いのではないか。 ○ ここで実施目的が広がることもあり、27年度に向けて再検討していきたいと考えているものである。 ○ 教員からは、勤務の振替が取りにくいという声も多い。 ○ それについては、私も聞いたかったのだが、教職員の勤務の振替状況はどうなっているのか。振替が取りにくいということが、アンケートの5番の回答に現れてい

曾田委員	<p>るのではないか。</p> <p>○ 質問の途中で申し訳ないが、先ほどの件について、誤解のないように補足しておきたい。1年間実施したことのまとめや、土曜授業の実施理由をより明確にするために再度もう1年試行し、その後検討するというのなら分かるが、この資料は、子どものことが全く見えてこない事務用資料のように感じられた。本来であれば、子どものために教育課程をどのように編成するかということが論じられて、その後、教職員の勤務等の個別具体的な検討に入るべきと思った。</p>
東條委員	<p>○ 先ほどの説明によると、来年度は新しい視点が加わったため、もう1年試行を継続するものと私は理解したのだが、今年度2回実施した結果として、勤務振替が難しいということが総括の一つとして挙げられるとのことだが、それ以外のことについて、事務局としてどのようにまとめをしているのか。</p>
指導課長 東條委員	<p>○ まとめについては、年間を通して実施した後に行うものと考えている。</p> <p>○ 特に中学校においては、部活の指導等していると難しいかと思う。土曜授業の趣旨は良いが、教員にとって負担が大きくなってしまうと、拡大させにくいということも理解できる。また、3回実施しないとまとめられないということだと、次年度のプランが立てられないことになってしまうので、この段階でのまとめもあるべきと考えるが。</p>
指導課長	<p>○ 目的の一つである「開かれた学校づくり」に関しては、土曜日に色々な活動を実施したことによって、多くの保護者等に参加いただき、一定の効果があつた。「よりよい教育課程の編成」については、土曜日に授業を行うことが、必ずしもその週のゆとりには繋がらないと感じている教員が多いということが分かった。また、各学期に1回実施することによってどれだけの効果があつたかということについては、警報等により臨時休校したことで減った授業時数の補填としては、多少なりとも効果があつたと考えている。</p>
委員長	<p>○ 土曜授業をやめた方がよいという意見も出ているが、これについての個別の意見を確認しているか。</p>
指導課長	<p>○ 保護者の意見としては、家庭において土曜日の予定を組んでいる、または塾に行くことにしているというものが多い。地域の意見では、やめた方がよいというものはそれほどなかった。教職員については、先ほどの、振替が取りにくいというものが多と思う。</p>
委員長 指導課長	<p>○ そういう意見が書かれていたということか。</p> <p>○ アンケートでは、理由を書く欄を設けていなかったため、随時に耳にした声として認識しているものである。</p>
曾田委員 指導課長 曾田委員	<p>○ 子どもには、アンケートを実施していないのか。</p> <p>○ 実施していない。</p> <p>○ 高学年になれば、単に良い悪いだけでない意見も出せると思うので、子どもへのアンケートも実施すべきだったと思う。また、教員の勤務に関しては、県の条例に依ることになるのか。</p>
学事課長	<p>○ 県費負担教職員については、県の条例に依ることになり、振替も、土曜授業実施日の前8週・後16週の中で取ることとなる。</p>
曾田委員	<p>○ 今回、文部科学省が方向性を示し、今後、全国的にも土曜授業が開催されることになると、抜本的に、条例（勤務の振替）を見直すことも考える必要があるかと思うが、そのような動きはあるのか。</p>
学事課長	<p>○ 今のところ、そのような動きは聞いていないが、先進的に土曜授業を始めたところから、前8週・後16週への改正が行われている。</p>
曾田委員	<p>○ 加重負担は避けなければならないが、一方で、子どもと向き合う時間の確保が叫ばれている中で、制度が改正されることを契機として、条例改正への働きかけ等も必要ではないかと思った。</p>
教育長	<p>○ 「よりよい教育課程の編成」については、1週間を単位として考えるのではなく、1年間を通して、全てを把握した中で考えていかなければならないが、その部分は、まだ効果的に動くことができていない。そこがうまくいけば、曾田委員がおっしゃるように、子ども達にとっても有効なものになっていくと思う。また、教職員の勤務の件については、今年の3月に、後8週から後16週に改正されたものだが、ま</p>

	<p>だ十分とは言えない。1年を通して振替が可能となるような制度も考えていかなければならないが、他都市との均衡や、教職員の研修との兼ね合いも考慮していく必要がある。土曜授業の試行は、わずか3日間のものであるが、全体を見直す契機となる年であったとも言える。</p>
曾田委員	<p>○ 目の前の制度を見直すことも必要だが、子ども達にとってどうしていくべきかを考えていくことも重要で、そのためには、また話が戻るが、岡山市として目指していきたいことが表にでた資料の方が良いと思った。</p>
指導課長	<p>また、授業時数の話で言うと、中学校の学習指導要領が改訂されて授業時数が増えたが、昨年実績はどのような状況だったのか。</p> <p>○ 中学校では、24年度の平均授業日数は200日で、標準授業時数を何とか確保できているという状況である。</p>
曾田委員	<p>○ 授業時数の確保というのも、土曜授業の効果の一つとしてあると思うが、実態をきちんと示し、だからこのようにしていきたいという内容にすべきである。</p> <p>文部科学省において、土曜日の教育活動に関するプロジェクトが立ち上がっていると思うが、岡山市では、岡山っ子育成条例において事業者の責務も謳っているのので、文部科学省ができることは、岡山市でもできるはずである。土曜授業をするかしないかを問うのではなく、こういうことを実現したいために土曜授業を実施したいという資料づくりが、ここに至っては必要である。たとえ今年度の試行が全て終了していなくて検証ができていないにせよ、教職員の勤務の問題等は予想できることである。だからこそ、岡山市として、教員や地域の教育力の向上、自立する子どもの育成等の命題とどのように絡ませていくのかを知りたかったので、テンポが遅いと指摘させてもらった。</p>
委員長	<p>○ 昨年、25年度に3回試行することを聞いた際、一つには授業時数の確保が目的としてあるのだと思っていた。授業時数のことを考慮すると、土曜授業を活用せざるを得ない実状もあるのではないかと思っているが、その中で、教職員の36%がやめた方がよいとも思っている。教員は、授業時数の確保に関して不安を感じてないということか。</p>
審議監(学校教育担当)	<p>○ 小学校と中学校で差はあるが、中学校の方が授業時数の確保が厳しい状況にあるため、土曜授業に対する理解も進んでいたと思う。</p> <p>授業時数の確保について言うと、従来でも、開かれた学校づくりのために、土曜日に授業を実施し、それに学校行事を充てることは行われていたが、それだと授業時間数がどうしても減ってしまう。これを、振替休業を伴わない土曜授業とすることで、「開かれた学校づくり」と「よりよい教育課程の編成」を両立させるという意味において、一定の効果があつたと考えている。そういう状況の中で、国が11月に、目的を「開かれた学校づくり」に限定しないとするように制度を改正したため、それ以外の目的を検討する必要も出てきたものであり、11月から12月の1ヶ月の間で答えを出すのが難しく、もう少し時間をかけて検討したいとしているものである。また、教職員アンケートで土曜授業をやめた方がよいとしている割合が多いことについても、勤務振替が難しいという理由のみで言っている訳ではなく、長年実施・浸透している週5日制の意義を重視しての意見もあるのではと思っている。</p>
東條委員	<p>○ これは感想なので回答は求めないが、アンケート中の「ゆとりはどの程度改善できると思いますか」という問いは、ゆとり教育と呼ばれる教育を受けた子たちに対して、大変失礼なものだと思う。そのことが、保護者と教職員の回答のポイントのずれに繋がっている。</p> <p>また、これは質問だが、資料の文部科学省の方針・留意事項の中で「土曜日等の授業のほか、地域における多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会の充実等により」と例示的に書かれているが、授業以外に、具体的にどのようなものが想定できるのか。先ほど曾田委員が言われたように、それが岡山市の目指すことと合致するから実施していきたいというような仮説的なものがあるのかどうかを聞きたい。</p>
指導課長	<p>○ 土曜授業は、学校の教育課程内のものだが、教育課程外のものも含めた幅広い活動が想定される。</p>

東條委員 指導課長	○ 結局のところ、何をしても良いということになるのか。
曾田委員	○ 所謂、机に向かったの授業だけではなく、課外での体験や物作りなどを含めたものになる。
東條委員	○ 教員が関わらなくてもできる活動、事業者の力を子どもの教育に関連させる施策を実現してほしいと以前から思っているのだが、なかなかそれが実現されない。 25年度の土曜授業の試行は、岡山市として目的をもって実施したものであり、11月に文部科学省の制度改正で目的が広がったにせよ、当初の目的があった訳だから、どうしてもそこにこだわってしまう。土曜日の選択肢として、課外活動を含めてまだまだできることがあり、教員の負担を伴わない活動も可能なはずである。その辺りを幅広く考える機会があったのが、今年だったのではという気がする。
指導課長	○ 今回の議案の題名は、「土曜授業について」ではなく、「土曜日の教育活動について」とするのがより正確だったと考えてよいか。
東條委員	○ 土曜日の教育活動の一つとして土曜授業があり、今回審議いただきたかったのは、土曜授業の試行に関してである。
教育長	○ 重ねての確認になるが、26年度は、土曜日の教育活動を土曜授業の実施により行うということか。
曾田委員 指導課長	○ 土曜日の教育活動全体のことは、今後教育委員会全体として考えていかなければならないことだが、本議案は土曜授業についてのものである。
東條委員	○ その場合、「開かれた学校づくり」は目的としてあるのか。
審議監(学校教育担当)	○ 今年度と同様にすることを考えているため、「開かれた学校づくり」と「よりよい教育課程の編成」の2つを目的とすることとなる。
曾田委員	○ 資料に『国が必須としていた「開かれた学校づくり」が「設置者の判断」ということになり、目的について精査が必要』とあるが、「開かれた学校づくり」を目的として試行しながら、それ以外の目的を検討することが可能と言えるのか。
委員長	○ 学校においては「開かれた学校づくり」を目的として実施してもらうが、事務局において、その他の目的について検討していくことになると思う。
東條委員	○ 同じ試行を2年続けるためには、よほどの理由があるべきであって、今年度は「開かれた学校づくり」の視点から試行したので、来年度の試行は、文部科学省の言う新しい視点を取り入れて行うというのが、流れとしては自然だと思うが。
曾田委員	○ 「開かれた学校づくり」は、アンケートを見る限り、かなり到達できていると見受けられるため、次年度は別の目的について学校に検討してもらうというのが良いのではないか。
奥津委員	○ 資料を初見した際には、文部科学省の新しい方針が出たため、方針と照合するために、今年度とは別の視点で試行を行うものと理解していたのだが、これまでの説明では今年度と同じことをもう1年行うということのようで、少し腑に落ちない気がしている。
指導課長	○ 子ども達への教育の方向性が見えないまま、事務レベルの話をしていることに問題がある。例えば、キャリア教育や総合的な学習の時間を、土曜日に、地域や事業者と共に行うことも可能であろうし、ESDや地域協働学校などの資源も活用して、課外授業や土曜学習を行っていくことも可能である。教員や子どもに負担が発生するだけということになってはならず、教員も、それが子どもの教育に効果的であると思えば、モチベーションも上がり、良い方向に進んでいくと思う。
奥津委員 指導課長	○ 27年度以降のことについて、「26年度の前半を目途に実施の目的を含め再検討する」との記載があるが、現時点では、どのように想定しているのか。例えば、月1回実施すべきと考えているのか、学期に1回程度で良いと考えているのか、又は、それらのことがまだ全く決まっていないという状況なのか。
委員長	○ 年3回よりも減らすことは考えていないが、増やすとした場合でも、メリット・デメリットを総合的に勘案して検討していきたいと考えている。
	○ 増やすことが必要であるという大前提に立っているという認識でよいか。
	○ 必要性は十分認識しているので、減らす方向にはない。 また、学校が行う土曜授業だけでなく、地域とも絡んだ幅広い土曜日の在り方を含めて考えなければならないと思っている。
	○ 27年度からは増やす方向もあるとのことだが、それであれば、26年度の試行

指導課長	<p>についても、年3回とするのではなく、年3回以上とするなど、増やしたときのことも検証しておく必要があるのではないか。</p> <p>○ 今年度も3回に限定している訳ではなく、学校の判断で4回以上実施することは認めている。</p>
委員長	<p>○ 年3回試行と明記してしまうと、4回目を行おうとするインセンティブが働きにくくなるのではないか。</p>
東條委員 指導課長	<p>○ 年3回以上と表記するのは、何か問題があるのか。</p> <p>○ そのように表記することに問題はない。説明の場では、4回以上実施可能とは伝えている。</p>
東條委員	<p>○ 今年度は標準の3回実施の学校がほとんどであると思うが、4回以上実施しない、又はできない理由は聞いているか。仮に実施できない理由があるとすれば、今後増やそうと思っても、増えないことになると思うが。</p>
指導課長 曾田委員	<p>○ 現時点では、4回以上実施しない理由は把握できていない。</p> <p>○ 今年度の試行により、教育委員会事務局で検証していくことは当然であるが、学校において、来年度の教育課程編成に反映させようという動きなどはできてきているのか。</p>
指導課長	<p>○ 色々な工夫が可能であるという認識は持っていると思う。土曜日を、自分で弁当を作る弁当の日とし、それを給食の代わりとして午後も授業を行った学校や、土曜授業の同日午後に職員研修に充てた学校がある。また、特に2学期の実施では、学校行事に充てたことで、平日に実施するよりも多くの人に見に来てもらえたなどの効果があった。</p>
曾田委員	<p>○ そういう取組が生まれることは良いことだと思う。ただ単に教育委員会主導で土曜授業を試行するというだけでは、本来の目的に到達しない。教育課程を見直して、授業時数を生み出せる方法もあるであろうし、気持ちの上でゆとりを持つことも大事である。子どもと向き合うために、家庭訪問や学校行事が教育課程の編成にうまく反映されるようになれば、意義があると言えるが、土曜授業ありきで、回数をどうするかという議論だけでは、もったいないと思う。</p>
委員長	<p>○ 各学校で試行錯誤していると思うので、先ほど説明のあった取組についても、共有できるようにしてもらいたい。</p>
教育長	<p>○ 実際に教育課程をどのようにしたのかを把握し、検証していくことが一番大切なことかも知れない。単に時間のやり繰りだけではなく、内容をどうしていくかということが重要であり、教育委員会としてもその部分の検証を行っていかなければならない。</p>
委員長	<p>○ これまでの議論の中で、文言の修正も含めて様々な意見があったが、今のままだと原案の承認はしかねることになる。</p>
曾田委員	<p>○ 今年度と同様の試行を行うことについて、少なくとも教育的な目的を明記する必要がある。</p>
東條委員	<p>○ どのような意図で行おうとしているのかが分かりにくい。さらに、その意図の前提として、今年試行したことのまとめがあって然るべきである。試行するのは良いが、何を何のために試行するのかが分かりにくいというのが、各委員の指摘しているところだと思う。</p>
教育企画総務課長 委員長	<p>○ 本義案について、一旦整理させていただきたい。</p> <p>○ それでは一時中断とする。</p>
<p>***** [一 時 中 断] *****</p>	
委員長 指導課長	<p>○ それでは再開する。再度、説明願う。</p> <p>○ 提案の目的等を、次のように修正する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどの各学校の工夫例を早急にまとめて全校に知らせ、来年度の教育課程の編成に活かすことができるようにした上で、「開かれた学校づくり」と「よりよい教育課程の編成」の2つの目的で、3回試行する。 ・ 4回以上実施する際には、「開かれた学校づくり」以外の目的で実施することを可能とする。

<p>教育長 審議監(学校教育担当)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ もう少し、背景等の説明をしなければ分からない。 ○ 今後、土曜日の教育活動の在り方について考えていくことになるものであるが、全体的なことがまだ何も決まっていない中で、土曜日の教育活動の一つである土曜授業についてのみ「開かれた学校づくり」を完全に目的から外してしまうと、土曜授業の意義が薄れてしまうため、3回は「開かれた学校づくり」を目的とし、それ以上実施する場合には、それを超えた範囲で実施することとするものである。
<p>東條委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4回目以降を実施する場合には、「開かれた学校づくり」にこだわっても良いし、こだわらなくても良いという位置付けで良いか。
<p>指導課長 曾田委員 橋本教育次長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ そういう位置付けで良い。 ○ 条例(勤務の振替)改正の可能性はどうか。 ○ かつて、岡山県の教職員は、年間の中で52週分の休暇を取るという変形時間労働制だったが、ひと月ごとに8日休む方が望ましい形であり、労働条件としては良くないものだった。岡山市として県へ要望を継続したこともあって、後8週が後16週に改正された経緯もあるので、今後もよりよい形を検討する必要があるが、研修との兼ね合い等、各種の観点から総合的に考えていかなければならない問題である。
<p>委員長 全委員 委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第33号議案を修正案どおり可決してよいか。 ○ <承認> ○ 第33号議案は修正案どおり可決する。

<p>傍聴の状況</p>		
<p>報 一</p>	<p>道 般</p>	<p>1名 0名</p>

平成25年12月 岡山市教育委員会定例会（非公開） 会議録

1 開催日	平成25年12月24日（火）		
2 開会及び閉会	開 会	16時10分	
	閉 会	16時20分	
3 出席委員	委 員 長	塩 田 澄 子	
	委 員	曾 田 佳 代 子	
	委 員	東 條 光 彦	
	委 員	奥 津 晋	
	委員（教育長）	山 脇 健	
4 会議出席者			
職 名	氏 名	職 名	氏 名
教育次長	橋 本 拓 治	教育次長	渡 辺 和 夫
統括審議監	佐々木 辰 昭	審議監（学校教育担当）	天 野 和 弘
審議監（生涯学習担当）	直 本 正 明	学事課長	三 宅 泰 司
事務局（教育企画総務課課長補佐）	高 木 宏		
5 議題及び結果			
第34号議案 岡山市立学校県費負担教職員の人事について	原案可決		